

河南町地域公共交通会議(ネットワーク全体の評価)

1. 交通会議が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

(1) 地域特性

人口減少・高齢化の進展

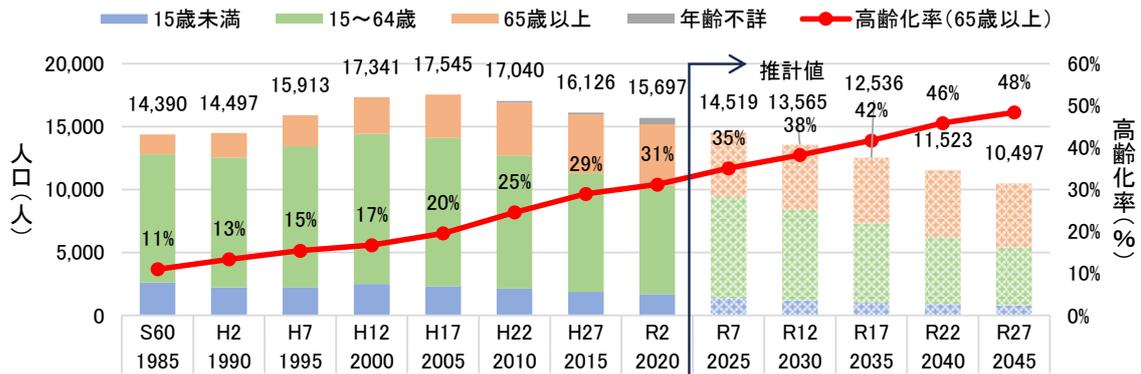


図1 人口推移と将来推計

(2) 計画の基本方針

- 方針1 まち全体で一体となり、地域公共交通を維持する
- 方針2 区域特性に応じた最適な公共交通サービスを、協働・連携のもとに実現する
- 方針3 新たなモビリティサービスの推進

(3) 計画の目標及び期間

- 目標 区域ニーズに応じた、誰もが移動しやすい、住みやすい公共交通サービスの提供を通じて、住民の生活活動を支援し、持続可能なまちづくりを目指します。
- 期間 本計画の目標年次は、2028年(令和10年)

(4) 公共交通の将来像

地域の将来像における位置づけ

町が目指すまちづくりに関する計画(まちづくり計画)との整合性を図り、地域の活性化及び住民福祉の向上に寄与する公共交通を目指す。

公共交通の機能分類とサービス水準等の設定

- 【機能分類】
(次頁参照)
- 【サービス水準】
公共交通人口カバー率:97%

公共交通網見直しの方向性

近隣市町村と連携しながら、持続可能な地域公共交通ネットワークの維持・確保を目指す。

位置付け	運行形態	路線等	役割	確保・維持	
地域公共交通	幹線路線(地域内幹線)	路線バス 金剛ふるさとバス	【駅直通路線】 ● 阪南線 ● さくら坂循環線 ● 千早線	各区域と鉄道駅を結ぶ幹線路線(駅直通路線)。地域公共交通ネットワークのうち、地域から鉄道駅(近鉄 富田林駅・喜志駅)への主要な移動を担い、町内外のアクセスの重要な主軸を担う。また、駅での他のバス路線への接続などの役割もあり、支線的役割もある。	広域協議会で連携を強めるとともに、国の運行経費補助である地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し、持続可能な運行を目指す。
	支線路線(地域内フィーダー路線)	自家用有償 金剛ふるさとバス	【補完運行線】 ● 阪南線 ● さくら坂循環線 ● 千早線(千早赤阪村)	金剛ふるさとバスの幹線路線である、需要の大きな駅直通路線を支えるため、朝夕のラッシュ時等の需要が見込まれる際に幹線路線の補完の役割を担う。また、駅での他のバス路線への接続などの役割もあり、支線的役割もある。	広域協議会で連携を強めるとともに、国の運行経費補助である地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統補助)を活用し、持続可能な運行を目指す。
		自家用有償 金剛ふるさとバス	【駅直通支線路線】 ○ 石川線	鉄道駅と町内拠点を結ぶ小さな需要の支線路線。阪南線と接続。	
			○ 白木線 ○ 河内線	鉄道駅と町内を結ぶ小さな需要の支線路線。さくら坂循環線と接続。	
コミュニティバス コミュニティタクシー	【町内循環線】 ● カナちゃんバス ・南ルート ・北ルート ● やまなみタクシー ・Aルート ・Bルート	町内の主要な施設・区域を循環する支線路線であり、町民の生活に係る移動を中心に支える役割を担う。バス路線がない交通空白地にもアプローチし、町内の移動を円滑にするとともに、鉄道駅にも接続する。	町内の移動環境・利便性の向上等の取り組みにより、路線の効率化・活性化を目指す。国の運行経費補助である地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統補助)を活用し、持続可能な運行を目指す。		
その他	補助的交通 地域の輸送資源	● スクールバス ・病院送迎バス ・福祉移動支援 等	町内外の通学・通院・日常生活における移動を支え、地域公共交通を補完する役割を担う。	町内の移動需要に柔軟に取り組めるよう関係者の連携深化を目指す。	

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

(1) 公共交通網評価の基本的考え方

個別の運行による利用者の利便性向上による評価に加え、河南町全体から見た公共交通の総合的な評価を行うことが可能で、持続的な交通体系の形成に資する指標を設定する。

- 公共交通の課題解決につながっていることを評価する
- 地域の状況変化を素早く把握できる指標を設定する
- 評価に係るデータ取得の負担を考慮して設定する

(2) 評価指標及び評価基準

項目	評価基準	現状値	目標値	評価方法	
費用効率面	収支率 (運行費用に対する運賃収入割合)	町内循環線 ●町内循環路線	14.8%(R4)	10～15%以上	年間実績
		駅直通路線 ●駅直通路線 ●補完運行線 ●駅直通支線路線	-	20～25%以上	
	行政負担額 (運行費用に対する行政負担額)	町内循環線 ●町内循環路線	30,631千円 (R6予算額)	現状以下	年間予算額
		駅直通路線 ●駅直通路線 ●補完運行線 ●駅直通支線路線	127,095千円 (R6予算額)	現状以下	
立地サービス面	公共交通人口カバー率	97% (R2)	現状維持	国勢調査 GISデータ	
利用状況面	年間利用者数	金剛ふるさとバス	推計:738,984人 (※1)	現状維持	年間実績 (年度ごと)
		カナちゃんバス	推計:33,525人 (※2)	現状維持	
		やまなみタクシー	937人(R4)	現状維持	

※1:R5.12.21～R6.1.20の1か月間における利用者数から年間利用者数を推計

※2:R4年間実績(R4.2～R5.1)を運行本数8本/日の場合で年間利用者数を推計

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取り組み内容

(1) 取組経緯

① 地域内の公共交通の概要、問題点

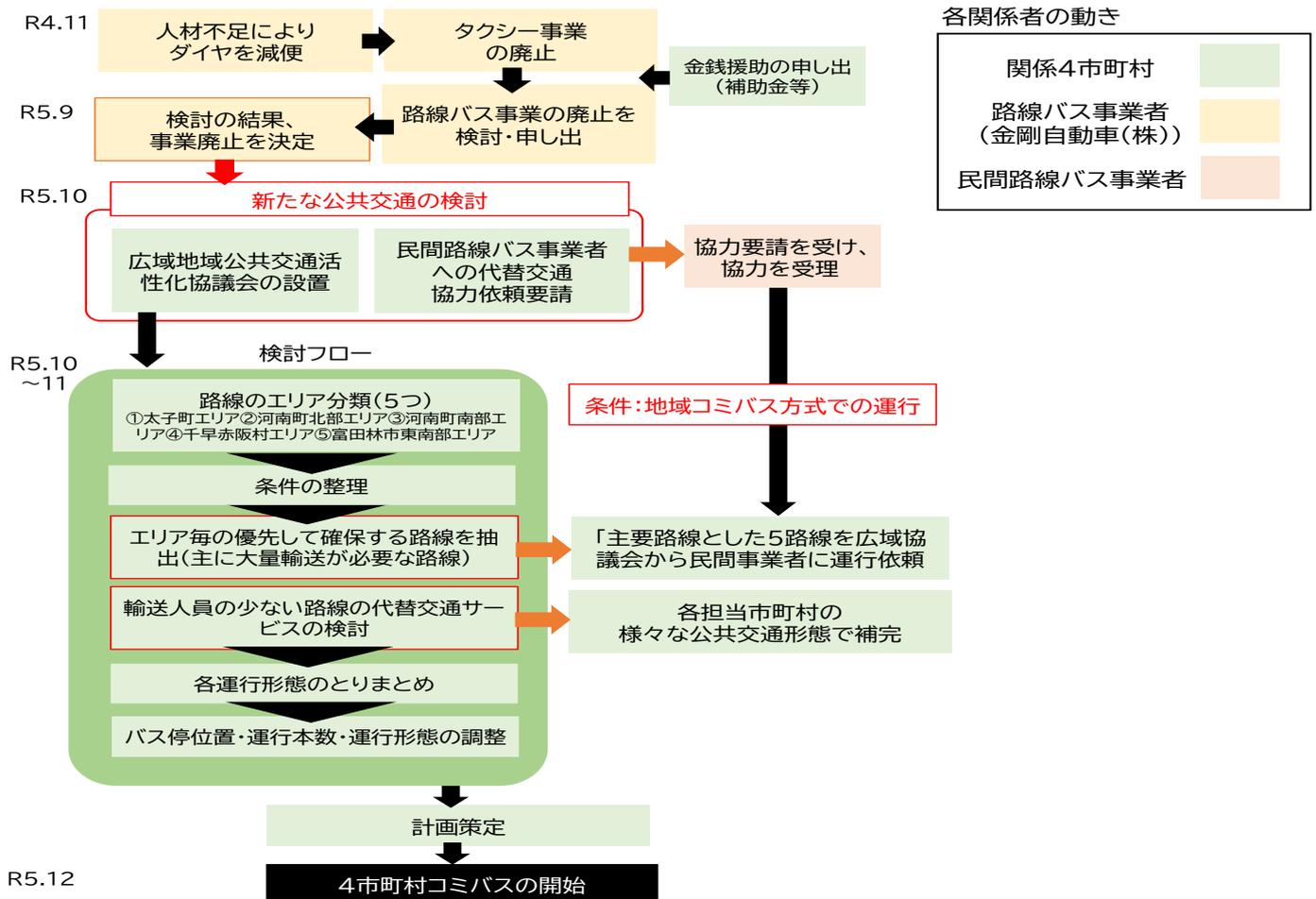
【概要】

平成31(2019)年2月に民間路線バスの他に、地域公共交通として「カナちゃんバス」および「やまなみタクシー」の本格運行をスタートさせた。また、金剛バスの事業廃止を受け、令和5(2023)年12月には「新たな公共交通(金剛ふるさとバス)」を「富田林市、太子町、河南町および千早赤阪村地域公共交通活性化協議会」において計画・運行に行政としての取り組むこととなった。

【問題点】

- 課題① バス交通サービスの維持
- 課題② 持続可能な地域公共交通網の構築・公共交通の利用促進
- 課題③ 高齢者に対する移動支援
- 課題④ 新たなモビリティサービスの実現

② 取組の実施に至る経緯



③ 取組(調査等)の主な内容

- 地域及び公共交通の現状
- 公共交通を取り巻く課題
- 河南町地域公共交通計画の策定
 - ・基本理念・基本方針
 - ・地域公共交通体系(公共交通ネットワーク)
 - ・施策体系・施策内容
 - ・持続可能な地域公共交通の確立に向けて(推進体制、評価指標及び目標値)

④ 主な調査結果 (次頁参照)

⑤ 協議会の開催状況、議論の概要

- 令和6年度 第1回 河南町地域公共交通会議(令和6年5月22日開催)
 - ・決算報告について
 - ・計画(案)について 等
- 令和6年度 第2回 河南町地域公共交通会議(書面)(令和6年6月19日-24日開催)
 - ・計画認定申請について
- 令和6年度 第3回 河南町地域公共交通会議(令和6年12月12日開催)
 - ・計画の改訂について
- 令和7年度 第1回 河南町地域公共交通会議(令和7年6月24日開催予定)
 - ・計画認定申請について 等

④主な調査結果

●地域及び公共交通の現状

現状① バス交通の事業継続の困難

- ・大型二種免許の取得要件、労働環境（年収、労働時間、雇用形態）が厳しい
- ・コロナ禍で落ち込んだ乗客数が完全に戻り切れていない
- ・燃料費高騰への収益面での打撃の影響、ドライバーの時間外労働に年間960時間上限が課される「2024年問題」への対応

現状② 新しい公共交通による運行経費の負担（利用者の減少）

- ・カナちゃんバスややまなみタクシーは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け利用者数が減少
- ・金剛バスの代替交通を確保するため、金剛ふるさとバスの運行経費を新たに負担

現状③ 人口減少と高齢化の進展

- ・公共交通利用者は人口減少と共に年々減少する傾向
- ・河南町は高齢化率が31%（令和2年度）であり、高齢者を含む交通弱者の移動手段として公共交通の維持・支援は今後も求められる

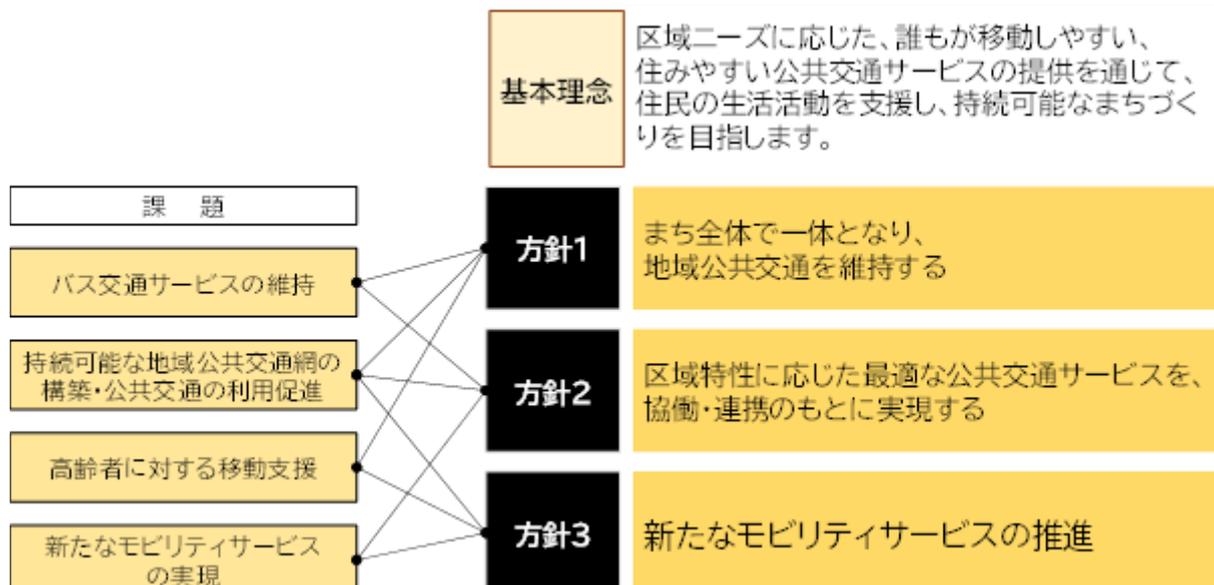
現状④ 移動に関する新技術の進展

- ・自動運転やシェアリングサービス、電動化等の技術の発展により、自動車を含めた多種多様なモビリティが進化
- ・AI技術を活用したオンデマンド予約システムの開発、MaaSにおける移動資源の連携サービスの進展

●公共交通を取り巻く課題

	現 状	課 題
1	バス交通の事業継続の困難	バス交通サービスの維持
2	新たな公共交通による運行費の負担	持続可能な地域公共交通網の構築・公共交通の利用促進
3	人口減少・高齢化の進展	高齢者に対する移動支援
4	移動に関する新技術の進展	新たなモビリティサービスの実現

●河南町地域公共交通計画の策定



(2)目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業

事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域間幹線系統補助事業	河南町	令和6年10月～令和7年9月	幹	金剛ふるさとバスの運行
地域内フィーダー系統補助事業	河南町	令和6年10月～令和7年9月	フ	カナちゃんバス・やまなみタクシー・金剛ふるさとバス(補完)の運行

【種別】幹:地域間幹線系統、フ:地域内フィーダー系統、策:計画策定事業、推:計画推進事業
利策:利便増進計画策定事業、利推:利便増進計画推進事業

その他補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助対象事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

(3)生産性向上の視点から取り組んだ事業

事業	取組内容	効果目標
スマホ定期券の導入	金剛ふるさとバスにおいて、利便性向上のため、スマートフォンで利用できる定期券システムを導入した。	収支率1%以上の改善
交通系ICカードシステムの導入(カナちゃんバス)	カナちゃんバスにおいて、利便性向上を図るため交通系ICカードシステムを導入し、利用者の利便性向上を図った。	
バス停の猛暑対策	カナちゃんバスのバス停にミスト発生装置やプランターへの植樹といった猛暑対策を実施し、利用者の快適性向上を図った。	
車内広告の掲示	カナちゃんバスの車内に広告を掲載できるようにし、ひと月単位、一枠ずつ販売し、収益性に寄与した。	

4. 具体的取組に対する評価

- ・地域公共交通を維持するため、金剛ふるさとバス、それを補完する支線路線、町内循環路線(カナちゃんバス・やまなみタクシー)の運行に取り組んだ。今後も公共交通の利用状況等を把握し、より利用しやすい公共交通体系の実現に向けて改善していく。
- ・収支率改善のため、様々な利用促進策に着手した。富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会では、金剛ふるさとバス利用促進検討分科会を立ち上げた。当分科会を中心に、今後も利用者の利便性向上を図り利用者増加に繋がる取り組みを進めていく。
- ・地域住民、交通事業者、行政機関、学識経験者等が一堂に会する「富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会」「河南町地域公共交通会議」において、持続可能な地域公共交通の実現に向け、協議を行った。今後も横のつながりにおける顔の見える関係を維持し、課題解決に向け取り組んでいく。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
＊地域公共交通の維持に関する課題 ●移動需要の減少等による地域公共交通の存続危機 ●運行の担い手不足	■地域の多様な交通資源の利活用、適切な運行形態の検討 ■新たなモビリティサービスの検討

河南町地域公共交通会議(これまでの経緯)

1. 昨年まで(直近)の二次評価の活用・対応状況

昨年まで(直近)の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
該当なし		

2. アピールポイント、特に工夫した点など

* 近隣市町村との連携

- 路線バスの事業廃止に伴い広域地域公共交通活性化協議会(富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村)を組織し、合同での「金剛ふるさとバス」を運行している。定期的に4市町村職員の担当者会議を開催し協議会の円滑な運営に努めている。